

まなびの森

校長通信 第3号 R2.5.8
廿日市市立吉和小・中学校
校長 森岡 勝司
TEL(0829)77-2010

教育目標「夢や目標をもち、果敢に挑戦し、自己実現をめざす児童生徒の育成」

臨時休校延長のピンチの時は親子ふれあいのチャンスの時です！

保護者の皆様や吉和地域の皆様には、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはメールをはじめ、本日の家庭訪問におきましては文書にてご案内しておりますが、5月31日まで臨時休校となりました。（写真 学校再開に向けてのグラウンド整備作業中の教職員）



それに伴い、本校としましては、休校期間の課題（宿題）を定期的な家庭訪問を通じてお渡しすることにしました。

訪問時には、児童生徒の健康確認をはじめ、学習面で困っていることはないかなどお声かけを行い、ご要望に応じては短時間での学習支援（当然のことながら三密を避ける形ですが）を行いたいと考えております。保護者の皆様におかれましては、気軽に相談できる機会になればと思っております。また、学習や生活面での相談や質問がありましたら、遠慮なく学校にご連絡を（77-2010）よろしくお願いいたします。



さて、エイズ孤児支援NGO・PLAS代表理事である門田溜衣子さんが親としての子どもへの接し方を語ってられました。参考になればと思い、紹介いたします。

このコロナ危機は悲劇ではあるけれども変革の機会をもたらすという意味で、まさにピンチはチャンスという側面があると思っています。苦しい状況に変わりはないですが、家族の自由な時間が増えたのも事実です。この機会を利用して、子どもの主体性を引き出すための経験を積んでみたらどうでしょう。一般的に、子どもに「ああしなさい、こうしなさい」と命令するよりも、「どうしたらいいと思う？」と問いを投げかけていく方が主体性を育む教育には良いとされています。多忙である平時は「早く宿題をしなさい」「寝なさい」と、親はスピード重視の行動を子に要求しがちです。でも今は「待てる時間」がある。「勉強しろ」ではなく、「今は何の時間かな？」と問いかけて、子どもが自分で考え、意思決定できる機会にできます。いつもは「せき立てコミュニケーション」ともいえるのですが、今は「問いかけコミュニケーション」が増えてもいいのかもしれない。